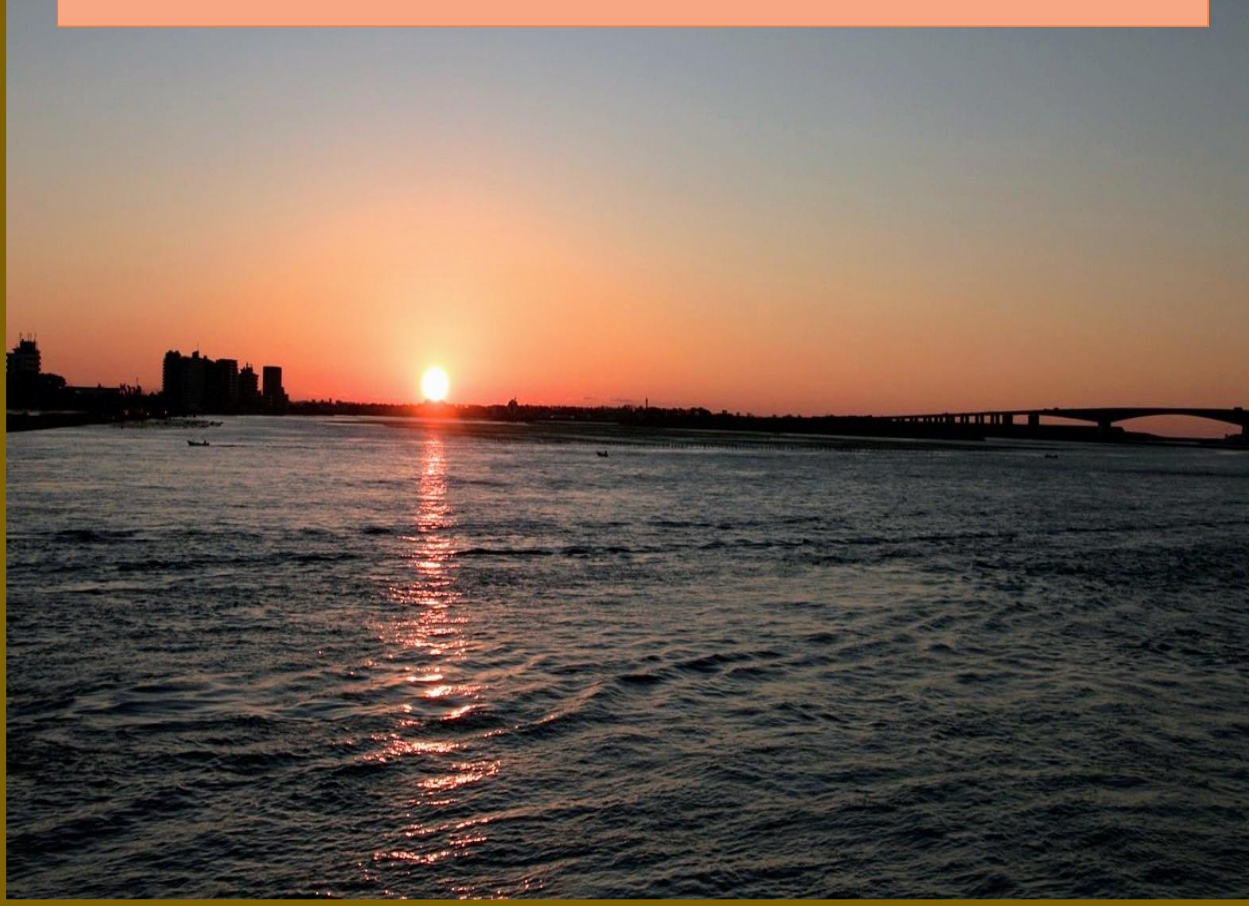


謹賀新年



あけまして

おめでとうございませす

本年もよろしく

お願いいたします

中央執行委員長

大杉正美

中央執行副委員長

小笠原浩文

書記長

辻村和裕

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

吉永和文

中央執行委員

赤松重幸

中央執行委員

小山達礼

特別中央執行委員

菊地克敏

特別中央執行委員

橋爪博史

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和五年 元旦



大杉執行委員長

2023年あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

日々の業務へのご精励と献身的な組合活動に対し、心より感謝を申し上げます。コロナ禍の長期化・深刻化により、JR貨物は計画値を下方修正する厳しい状況が続いています。昨年10月の改定では、鉄道事業▲9.5億円・単体0億円と改訂していましたが、この難局を克服し、JR貨物グループ、JR産業の安定回復へ確かな見通しをつけ、働く仲間の安心を取り戻すために、責任ある運動を進める決意です。それでは、新年にあたり重要課題4点について提起しご挨拶とします。

まず1点目は最優先課題である安全確立についてです。昨年11月、南関東ロジ労組立案の基、JR連合安全対

策委員会は「東京貨物ターミナル駅」を視察いたしました。経営が苦しいからといって、安全を軽視するようではJR貨物グループの発展はありません。労働組合のチエック機能、提言機能を強化し、労働組合が安全の番人として「おかしいことはおかしい」と言える職場づくりを更に進むよう提起したいと考えています。

2点目は政策課題について

昨年12月に税制改正大綱が発表されJR貨物関係では、「鉄道用車両の動力源に供される軽油に関わる還付措置」(地球温暖化対策税)が盛り込まれ、JR連合国会議員懇談会・JR連合の取り組みに心より感謝いたします。また、同月には超党派による「持続可能な明日の鉄道を誠実に考える会(明日鉄)」が設立され、今後の通常国会に於いて、2023年予算編成・税制特例成立に向け、良い結果が出ることを期待したいと思います。JR貨物の経営は、コロナ禍・世界情勢・国内情勢等により厳しい経営を強いられています。

いなことに雇用調整助成金を受けるとなく業務を遂行しています。しかしながら、同じJR産業で働く仲間の中には雇用調整助成金が命綱となっていることもあり、政策活動の取り組みが如何に重要かを感じていただければ幸いです。

3点目は組織課題についてです。

昨年は、多くの成果があり改めて感謝申し上げます。日々、各地区本部が鋭意に取り組んでいることは重々承知していますが、もう一段ギアを上げて取り組んで頂くようお願い致します。本部としても出来ることは何でも協力出来る体制を整えていきます。

(直近上位)の商品(交通共済↓こくみん共済)が記載されていますので、まずはスムーズな移行をお願い致します。結と致しまして、2023年春季生活闘争を通じ、組合員が安心感を回復できるメッセージを伝えることが重要と考えており、JR7単組とグループ92単組がワンチームとなり、月例賃金アップにこだわり総合的な生活改善を進めていきます。

「JR貨物グループ長期ビジョン2030」では、完全民営化が盛り込まれており、そのためにはJR貨物が今以上に「クリーン」にならなければなりません。この難局を労使と共に乗り越え、JR貨物が将来にわたり発展していくため、皆様の先頭になって取り組んでいくことをお約束し、新年にあたってご挨拶と致します。

本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



2023年1月～2月行事予定

行事予定

1月12日(木)・都内
JR連合執行委員会

1月18日(水)・都内
JR連合産業政策委員会

1月23日(月)・広島
JR連合男女平等参画委員会

1月25日(水)・都内
本部会計監査

1月31日(月)・豊橋
JR連合ビジョン推進委員会

JR連合組織・財政検討委員会

2月1日(火)・豊橋
JR連合第35回中央委員会

2月5日(日)・博多
拡大執行委員会

2月6日(月)・博多
第36回中央委員会



荻山JR連合会長

2023新年あいさつ

明けましておめでとうございませう。組合員と家族の皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日々の業務へのご精励と組合活動へのご協力に對して心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

JR産業は長らくコロナ禍の影響に苦しんでまいりましたが、昨秋からようやく利用が増加に転じています。駅や列車の賑わいを見て、本年にありがたく感じます。昨年

はJR連合結成30周年、鉄道開業150周年を迎えました。この大きな節目に続く2023年は、JR産業を本格的な回復軌道に載せるとともに、次なる30年の持続的な成長に向けたスタート台となる1年にしたいと考えます。そのために取り組むべき課題と方針について、最優先課題である安全の確立

を大前提に置きつつ、以下3点申し上げます。

まず、当面はウイズコロナの時代を覚悟せざるを得ない中で、国に對し、感染防止と社会経済活動を両立して人の流れを支えるよう求めます。ルールを守れば、JRをはじめ公共交通による移動は安全だと確信します。2023年も「全国旅行支援」が当面は延長されますが、国や地方が息長く移動を促進するメッセージを発信することが不可欠です。また、コロナ禍による生活様式や働き方の変化に對応した新たな需要の拡大も求めていきます。

2点目に、JR連合が昨年10月に発信した「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言」に示す通り、JR産業の持続的な成長のために、JR労使の自ら変革を推進するとともに、鉄道や公共交通に関わる国の政策の転換を求め、その転機となる意義ある1年にしたいと考えます。少子高齢化や人口減少、高速道路の整備などの環境変化によるJRへの影響が、コロナ禍によって一気に顕在化しました。JR

産業は国鉄改革に並ぶ大転換期を迎えています。「JR北海道・四国・貨物の経営自立をはじめ、JR各社が民の力をさらに発揮できる環境づくり」「事業者任せでなく、地域モビリティを守るための官民パートナーシップの充実」「新幹線をはじめ鉄道の成長分野を磨く国の政策強化」などを訴えて政策の実現に取り組みます。

3点目に、JR産業の魅力が低下し、職場で将来不安が拡大している実態に危機感を持ち、JR産業の仲間が意欲高く働き続けられるよう、賃金や働き方などの改善に向けて、中長期的な視点から取り組みを強化することとします。とりわけ、若手や中堅の離職増は深刻な課題です。2023春季生活闘争では、労使で危機感を共有し、

目先だけを見た交渉ではなく、あるべき賃金水準、労働条件、働き方などについて骨太の議論を深め、目標達成に向けてバックキャストの思考でのアプローチが求められます。急激な物価上昇にも対応しなければなりません。JR連合のすべての単組がOne Teamとなつて取

り組む決意です。不安が広がる危機にこそ、責任ある労働組合と労使関係の役割が重要となります。あらためて、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、そしてJR各社の結束の強化とJR連合との信頼関係の構築も訴えます。結びに、次代の展望を拓く明るい年とすべく、全力で取り組むJR連合の決意を申し上げます。新年のご挨拶とします。



JR社員のみならず、JRグループ会社の社員、退職後も利用できる、開かれた共済。

病気、交通事故、火災、地震・・・など、偶然の事故に備えて仲間(組合員)が掛金を出し合い、いざという時に助け合うのが共済です。集められた掛金は、共済金等の支払と事業運営に充てられ、剰余となる部分は、割戻金として組合員の皆さまに還元しています。



みんなで暮らしをガード
交運共済 (JR職域生協)
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合



交運共済 ニュース